

暗唱聖句 「このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、このキリストのお陰で、今の恵みに信仰によって導き入れられ、神の栄光にあずかる希望を誇りにしています」 ローマ5：1，2

今週の聖句 ローマ5章

今週の研究：パウロはアダムとイエスを対比し、キリストがどのようにしてアダムの行為をもとに戻されるか、またアダムの罪の犠牲者が信仰を通して救い主イエスによって救われるかを明らかにしています。イエスは御自分の血によって、彼を受け入れるすべての人を義としてくださいます。

日曜日：私たちが義と宣言されている、あるいは義と認められているのは、律法の行いによるのではなく、イエス・キリストを受け入れたことによります。イエスが地上で送られた完全な生涯とイエスの完全な律法遵守が、私たちの完全な律法遵守と認められるのです。

私たちのすべての罪が、身代わりとなられたイエスの上に置かれています。神はイエスがこれらの罪を犯したと見なされ、私たちはキリストの身代わりによって受けるべき刑罰を免れることができます。この刑罰は私たちの代わりに、イエスの上にくだったので、私たち自身は刑罰を受ける必要がありません。罪人にとってこれ以上に喜ばしい福音があるでしょうか。

義とされた人は苦難においても喜ぶことができます。なぜなら、彼らはイエス・キリストを信じ、彼に信頼を寄せているからです。彼らには、神が万事を益としてくださるという確信があります。彼らはキリストのために苦しむことを誇りとします。

月曜日：イエス・キリストの血は、神の怒りが世の終わりにおいて最終的に罪を滅ぼす時に、義とされた者たちを守ることの保証となります。

神は愛と交わりの神です。人々を愛される神は離反を好まれません。愛の神は、愛と荒廃に対して怒りを発せられます。

神から離反し、反逆した人類のために、キリストは人の身代わりとなって死ぬことによって、神との和解を達成してくださいました。キリストがわたしたちのために死なれたことは大切なことですが、キリストは永遠に死んだのなら、それは非常に悲しいことです。キリストは公生涯中に罪を犯さず、人類の救いをあきらめずに

、身代わりの救済を達成してくださいました。

その上に、キリストはよみがえって、今も生きておられるので、キリストとの再会の希望を持ち、私たちは救われています。

-----

水曜日：シナイ以前の人間は、一般的に、神について限られた啓示しか与えられていなかったことは事実ですが、与えられた光に従って責任を問われました。神は公平な方で、人を不正に罰することはありません。シナイ以前の世界の人間も死にました。死はすべての人に及びました。彼らは自然界を通して神の啓示を受けていた

ので、それに従わず、したがって罪の責任を問われたのです。

イスラエル人が自分自身を神の要求と比較したとき、自分たちがそれから遠くかけ離れた存在であることに気づきました。言い換えるなら、彼らは自分たちの罪の程度を悟りました。このような啓示の目的は彼らに救い主の必要を悟らせ、神によって無償で与えられている恵みを受け入れるように促すことでした。

-----

今週の教課の学びは、どの言葉を引用しようか迷うほど大切な内容が多くありました。もし時間があったら、目を通して教会へ出席してください。

今週の大きなニュースは、100歳以上の高齢者の行方不明でした。日を追うごとにその数が増えています。

いろいろな論調があります。たしかに行政の怠慢もあるかもしれません。100歳を過ぎて健康保険や介護保険が全く使われていないとしたら、おかしいと思わないのかという感覚が無い公務員には問題を感じます。

けれどもそのようなことでは、問題の根本を解決できません。人と人との絆が薄くなったこと、かわりをもたたくないと考える人が増えたことが原因でしょう。これは言い換えれば、あなたはわたしにとって必要無いと言うことで、忘れられて行く人は、社会からあなたは不要だと突き付けられているのではないのでしょうか。

このような現象を、福祉の世界で働くようになってからは、数多く見えています。だから今回の問題を聞いても、あまり驚きませんでした。

元気なうちは、絆が無くても生きて行けます。けれども自活できなくなった時に、絆が無く、そしてお金もないと身動きがとれなくなってしまうのです。そのような方々に手を差し伸べるのも社会福祉法人の大きな役割なのです。

さて、人間が不要と烙印を押すことがあっても、神さまはそのようなことはなさらないと聖書には約束されています。

今週の学びである、信仰の本質とは、この「すべての人を愛してくださる神さま」の愛情から始まっているのではないのでしょうか。この天から注がれている愛情に気づき、応答することしかわたしたちはできません。

神さまは、このことを気づかせるように律法を与え、み言葉から語りかけ、時には試練をもゆるさ

れることがあります。

この愛情が全世界のすべての被造物に注がれていること、このことを信じるのが、イエスさまを信仰することではないでしょうか。